

磐城高校とは その1

磐城高校とは皆さんにとってどのような場所であったでしょうか。私にとっては、かけがいのない場所であり、自分がそこにおいて違和感のない場所でありました。休みの日でも、ちょっと暇ができると、まずそこに行ってみたくなる場所、その空気を吸っていると心落ち着く場所であります。

学校のいたるところを知り尽くしているといっても過言ではありません。夏の朝、4:00頃訪れると、クワガタやカブトムシも取ることができ、子どもが小さい時には、よく通ったものでした。

図書館の奥の部屋には、昔の本がたくさん積まれており、そのまた奥の場所には、昔からの卒業アルバムがあって、自分の若い時の写真を眺めたり、卒業生の先生方の学生時代の今とは違った面影に感心してみたりすることができます。

保健室の近くには、昔の守衛室もあり、お風呂の後とかも垣間見ることもできます。南体育館の二階には、体育教官室の名残もあります。談話室は、喫煙室であったこともあって、壁のたばこのやにをクレンザーで落とす仕事をしたこともありました。印刷室の前のロッカールームは、文化祭で使った様々なグッズを蓄えておくこともできました。茶道室の道具には、高価な茶わんやすばらしい花瓶などもあるのです。その隣の写真部室には暗室があります。暗室は理科棟にもありました。理科棟を大改修して、ホルマリン漬けの標本や、化石なども整理されましたが、学生時代の理科室の奥は、恐怖の凝縮したびっくり！箱のような場所でした。

各部活動の部室も驚きあきれる場所でした。男子高時代の残骸が如実に感じられるバックネット裏の下の部室は、床は土なのです。様々な青春の残滓がこびりついている部屋です。

運動部のプレハブ小屋にも様々な時代の遺物が垣間見れます。それでも年々片付けが行き届くようになり、少しはきれいになったとは思いますが。戸締りも以前よりは行き届くようになりました。

坂を上っていきつく高月という土地の得も言われぬ歪空間のようなこの場所には、120年の時代の風が吹いています。様々な人々の思いが通り過ぎた痕跡がいたるところに顔を出します。メタセコイアの木ばかりがどんどん伸びて、伐採するにも1000万円がかかる状況ですが、その根が張り巡らされているように、地下深くまで過去の空気がしみとおっているのです。

「年々歳々花相似たり。歳々年々人同じからず。」といった中国の詩人は、まさにこのような状況をその場所に感じていたのでしょうか。